

読みの力を高める授業作り —「雪わたり」・ポップ作りの実践を通して—

東京都江戸川区立西一之江小学校 小澤 珠里

一 はじめに

高学年の読むことの内容は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」と学習指導要領に示されている。そこで、本単元で児童に身につけさせたい読みの力を四つに絞り、実践に取り組んだ。

【児童に身につけさせたい読みの力】

- ①登場人物の相互関係、心情の変化を読む力
 - ②場面を比べて、物語全体を読む力
 - ③優れた叙述を味わいながら読む力
 - ④文章を読んで考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする力
- また、宮沢賢治の作品は児童にとって難解で、物語の世界に入り込めない児童もいる。そこで、読みの力を明確にして取り組むことで、児童に読みの力が高まるだろうと考えた。

二 単元について

- (一) 単元名
「おすすめ本を紹介しよう」
↳ ポップを作って本のよさを伝えよう

(二) 単元計画(全八時間)

- ①宮沢賢治の作品にふれる。
- ②「雪わたり」を読む。

- ・情景描写や優れた表現を読む。
- ・登場人物の行動会話から読む
- ・場面の变化から読む。
- ・作者から読む。

- ③「雪わたり」のポップを作る。
- ・雪わたりで読み取ったことをポップに表現する。

- ④自分のおすすめ本のポップを作る。
 - ・日常の読書生活を見つめ直し、「雪わたり」の学習を生かしてポップを作る。
- 本単元は、物語文「雪わたり」と「読書しえん会をひらこう」から構成されている。

児童の読書の幅を広げるためにも、「雪わたり」で読み取ったことを手がかりにして、自分のおすすめ本を紹介できるように、単元の最後にポップ作りの活動を取り入れた。

三 「雪わたり」を読む

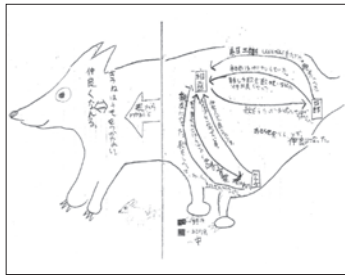
- (一) 読みの手がかりを明確にする。

【読みの手引き】

- ①初発の感想
- ②文章表現
 - ・色彩表現
 - ・比喩
 - ・繰り返し
 - ・擬音や擬態
- ③行動や会話
 - ・吹き出し
 - ・サイドライン
- ④場面の变化
- ⑤作者について
 - ・ほかの作品等

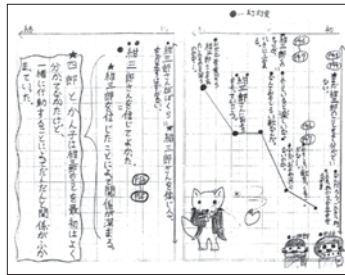


物語を、ずばり一文で表せるように



【人物関係図】

登場人物同士の関係を矢印で表す。登場人物同士の距離を表しやすい。矢印は、根拠となる文章表現や読み取ったことを書く。



【心情曲線】

登場人物の気持ちの変化や関係の变化を折れ線グラフに表し、根拠となる文章や読み取った気持ちの变化を書き込む。

(二) 優れた情景描写のランキング作り
「雪わたり」の特徴であるリズムある表現や擬音、情景描写をランキングにして、伝え合い、音読する。

(三) 人物の関係の变化を場面を比べながら読む。

(四) 一文で表す。

クライマックスの場面から、「雪わたり」のおもしろさや登場人物が伝えたいことを読み取り、短い言葉で表す。

(児童の作品例)

- ・ 違う生き物でも同じ気持ち 同じ気持ちで絆が生まれた。
- ・ きつねのうその犯人は人間
- ・ 大人になっても、うそや人を悪いと言わないこと
- ・ 三人の心をつなげるきびだんご など

四 ポップ作り

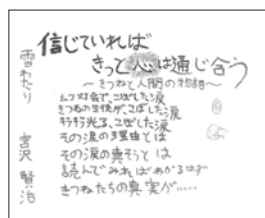
ポップを作るためには、内容の本質を読み取り、短い言葉で作品のテーマを表現する必要がある。そのために、「雪わたり」で学習したことを生かして、最初に「雪わたり」のポップ作りを行った。

【ポップを作るために】

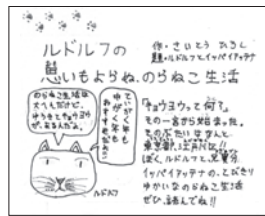
- ① 作品のテーマを一文で大きく書く。
 - ② おすすめの叙述を入れて書く。
 - ③ 読み取った内容を書く。
 - ・ どんな話か。
 - ・ クライマックスの場面
 - ・ テーマの説明 など
 - ④ 絵や吹き出しを工夫して書く。
- さらに、自分のおすすめ本のポップを作る

ことで自分の読書を見つめ直すことができ。ポップは図書室や、学級文庫に掲示することで、児童の読書に対する意欲を高めることができた。

●雪わたりのポップ



●おすすめ本ポップ



五 おわりに

今回の学習では、「雪わたり」の初発の感想に「全く分からない話」と書いていた児童が、終わりの感想で登場人物の関係の变化や登場人物が伝えたいことを読み取り、ポップにまとめることができた。

しかし、全体を読んで関係の变化を考えられる児童が増えたが、場面ごとの細かい読み取りに課題が残った。限られた時間の中でより効果的に読みの力が高まるように、授業展開や手法をこれからも工夫していきたい。

おざわ じゅり 江戸川区立西一之江小学校主任教諭。